

協議概要

(会議名)	令和7年度 第1回船橋市特別支援連携協議会
(日時・場所)	令和6年5月29日(木) 14:30~16:30 705会議室
(出席者)	植草学園大学特命教授 佐藤 慎二、船橋市自閉症協会副会長 三川 瑞子、 幼稚園連合会長 尾木 修介、船橋公共職業安定所長 鈴木 ひろ子、 県立船橋特別支援学校長 竹内 登志子、 福祉サービス部長 岡部 佐知子、地域子育て部長 小澤 洋一、 市立船橋高等学校長 近藤 義行、市立船橋特別支援学校長 神田 順子、 小学校長会長 野木 英表、中学校長会長 太田 由紀、 特別支援学級設置校校長会長 中道 恵美子、 特別支援教育研究連盟理事長 生井 敏昭、 教育次長 小栗 俊一、学校教育部長 日高 祐一郎、 市総合教育センター所長 小川 欣弘
(事務局)	金子 勝一、鰐部 裕実、白石 亜希子、宮崎 文香、横内 正隆、星野 沙織、 武田 芳樹

<議題>

乳幼児期から学校卒業後までの一貫した支援ネットワークづくり

<概要>

- ・昨年度の作業部会で新しく作成した「個別の教育支援計画」について事務局から説明。各学校からのアンケート調査を参考に、作成しやすく、活用しやすい、また、「引継ぎのための連絡票」とリンクした「個別の教育支援計画」を完成させた。今年度は「個別の指導計画」の書式の見直しを図ることと、完成した「個別の教育支援計画」の「作成・活用の手引き」と保護者向けリーフレットの作成準備を進めていく。
- ・アンケートの項目として、「どんな機関と共有していますか」という項目を入れてほしい。他機関と共有することを前提とした上で、個別の指導計画を作成してほしい。
- ・アンケートの対象がコーディネーターだと個人の判断で回答してしまい、実際書くことになる担任の声が届かない可能性があるので、対象者についての検討が必要である。
- ・長期目標について、課題となることが書かれていることが多いが、その子の良いところや得意なところを記入する必要があると思う。
- ・特別支援学級や通級指導教室がない学校にとっては、手引きを渡しただけでは分からないので、研修会を実施しながら落とし込んでいく必要がある。
- ・手立てが「声かけ」だけで終わらないように、様々な手立てがあるという例があるとよい。

- ・中学校は教科担任制なので、担任以外にも関わる先生方で寄せ書きしながら作成する方法があっても良いと感じた。
- ・手引きの中に検査についてもふれてほしい。検査をして何の役に立つのか、どう生かすのか、検査に対する知識がない方もいる。
- ・高校では、学校支援部という部署で週 1 回会議を行っている。専門性が高い職員が中心となり支援を考え、関わる職員に伝達している。作成については、できるだけ活字が少ない方が書く側の負担は少ないと感じている。
- ・幼稚園や保育園でも年々支援を要する子どもの相談は増えている。その中で、誰に相談したら良いのか、どのような支援をしたら良いのか分からないという声が担任の先生からも多くある。診断がないグレーな子どもも含め、情報共有の仕方、早くて分かりやすい支援体制作りができれば良い。
- ・リーフレット作成の流れで、「まずは担任の先生に相談して下さい」ではなく、不登校の児童・生徒、就学前の方、まもなく学校を卒業する方もいるので学校以外の相談先についても触れてもらいたい。

<今後の動き>

事務局で「個別の指導計画」についてのアンケートを作成し、各校のコーディネーターと若年層の通常学級担任を対象にアンケートを実施する。アンケート結果を基に作業部会で「個別の指導計画」の内容、「作成・活用の手引き」とリーフレットの内容を検討し、作成を行う。